

西東京市立ひばりが丘中学校建替協議会

第3回会議ワークシート 集計結果

1 概要

- (1) 対象 西東京市立ひばりが丘中学校建替協議会全員
- (2) 方法 第2回建替協議会においてワークシートを各委員に配布
郵送等により提出
- (3) 回答者数 19人(提出率100%)

2 回答

【質問】 建替校の将来像について、第2回会議の内容や配布資料を踏まえ、考えたことや感じたことなどをご記入ください。

委員名	内容
A	まず、生徒にとって生活しやすい環境が第一で、環境を考慮した学校や災害に強い学校、地域にとって開かれた学校は、次であると思います。 1つ1つテーマをある程度クリアしていく必要があるかと思っています。
B	建設場所が決まっていないので、配置計画パターンを見ても想像することができなかった。緑化は大切だと考えるが芝生化は世話が大変で特にグラウンドは使用出来ない時期が多いと聞いている。 変化への対応での可動式仕切りは利用する目的によって変化するので、とても良いと感じた。
C	・地域住民に対する説明会の実施 ・あくまでも中学生が使用するので、仮住まいの小学生の事は考えの主流から外す ・碧山小、けやき小の例からもあまりオープンすぎない方がよい(安全対策の面からも) ・緑の多い学校には憧れるが、芝生の運動場は反対。むしろ、児童・生徒の遊び場を奪うことになる。やるなら屋上に緑を。木の多いのも落ち葉の時期が大変 ・ひばり中の通学区域はどうなるのでしょうか

D	<p>(1)環境や防災の観点から考えましたが、根本は教育じゃないでしょうか。つまり「教育施設とは」という第一義が最初になかったことが課題です。</p> <p>(2)禁欲的な最低ラインのみを話し合うのではなく夢のあるプラスの部分、豊かさを育てる部分も教育には必要です。基礎・基本と同時に豊かさ・楽しさを施設に付加したいです。</p> <p>(3)地域の人との連携をどのように作るか。災害時以外での施設利用と人的交流を考慮したコンセプトがほしいと思います。</p>
E	<p>ひばりが丘中学校建替協議会に参加できることは光栄です。未来の子どもたちがいい環境で学習や運動をして一日を過ごすことになるのですから、責任重大です。とはいっても専門家ではないので、財政とかは考えずに非現実的な意見を出してしまうかもしれません。</p> <p>校舎の配置計画を見せていただきましたが、どの場所に建つのか、道路はどの位置につくのか分からない状態でしたので、はっきり決まってから説明していただきたいと思います。</p>
F	<p>建替校の将来像についてグループに分かれての懇談では、委員の方々の現在感じている環境や防災に関する事、子ども達に自然と環境を学んでもらいたい等それぞれの立場からの積極的な意見が出て、とても良い内容の会議であったと思います。</p>
G	<p>学校建設予定地を早く決め、校舎の向きについても出来るだけ早めに決定をお願いします。</p> <p>なお、中原小、ひばり中の雨漏りがひどいので、1年でも2年でも早急に建替をした方がよいと思います。</p>
H	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の役割＝生きる力の育成(豊かな心、学力、身体)は、変わらないだろう。 ・教室の型は密閉できる空間(一般教室)と開放空間の両方があると良い。交流授業では、空間に余裕があった方がよいので、教室サイズも可能な限り大きくして欲しい。スマートハウスや屋上緑化などエコの視点も必要。あたたかい学校を体感できるデザインが良い。
I	<p>有意義な時間だったと思います。お恥ずかしながら前回の会議まで建替校のイメージが全く持っていませんでした。会議の中で非常に快適で、子どもたちが楽しく過ごせる環境ができるのではと、とても期待が持てました。</p> <p>他校の校舎のことを知り合いから聞くこともあまりなかったのですが、もし次回の議題を予めお知らせいただければ、自分なりに考えたり、情報収集もできるかもしれません。そうしていただければ、より充実した会議になるのではと思いました。</p>
J	<p>(仮)第10中建設像について</p> <p>子どもたちの教育環境を「第一」に考えることが重要だと痛感しました。その上で2点要望があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校周辺環境…隣市のイオン、商業施設などが学校周辺にできないよう配慮する。 ②体を動かせる環境…校庭を作る際、芝生を居住地側、土壌をその反対側に位置することで、養生期間中も体を動かし子どもたちもストレスをためることもなく、また近隣にも土ぼこりが飛びにくい。

K	<p>緑の多い地域に建つ中学校なので、大きなけやきの木などを配した木陰のできる学校を望みたい。今までの学校のイメージに縛られがちだが、できれば、学校と周囲のフェンスを無くし(ボールの飛んでいく方向は残し)て生け垣程度の境とし、地域の人も学校の植栽を手入れするような誰もが気軽に散歩等で立ち寄れる庭を備え、ベンチからは体育の授業が見えるような開かれた学校が良いと思います。また、周囲はジョギングコースをつけ、誰もがいつでも体力維持に使えるように、また体をのばせる遊具等も設置すると良いと思います。(緑豊かで地域に開かれた学校)</p> <p>また、文科省のアイデア集にあるような「まぶしくない暑くない教室」のように光をうまく取り入れ、暑さ(寒さ、暗さ)の対策が可能ならば取り入れて欲しいです。また、ひばり中では学年によってはランチルームで給食をとっていますが、そういうスペースも大切にしたいし、自校式の給食で作るプロセスも見えたならば、色々な方のおかげでこの給食もあるという心を育むこともできると思います。</p>
L	<p>今の在校生がほとんど関わりがない建替に、中原小PTAとして関わることに、すごく違和感があります。一度話し合ったことをまた蒸し返しているような感じも否めないのも、建設の日程が動かせないのであれば、工事の2年ぐらい前から集中的に会議を開催しても良かったのでは?何年も前に結論を出しても、実際工事を行う時期にはその意見が時代にそぐわない点もあるかと思えます。このように皆様忙しい中で真剣に取り組んでいらっしゃるのだから少しでも実現に向けて(2年でも3年でも)計画を前倒して下さることを切望いたします。</p>
M	<p>①緑化を考慮していることを大変うれしく感じましたが、屋上までは予算は行き届かないと思いますし、やりすぎかなと思いました。</p> <p>②地域の方々が出入りしやすく、いざという時地域の役に立つという所はあまり考えてなかったもので、素晴らしい案だと思いました。</p>
N	<p>これから先なにが起こるかわからないので、非常の場合の安全な施設にしてもらいたい。</p>
O	<p>いろいろなアイデアが出ましたが、実際に使用した施設にいい点・悪い点など可能な限り教えていただけると、とても友好的に進められると思います。次回見学させていただける機会をつくっていただけてとても有難い事です。時間はあるようでないのが事実です。時間を有効に使っていきたいですね。先日、お話に出たご近所への周知などを先に進めた方がいいのではないのでしょうか?建設する位置も早いうちに決定した方がいいと思います。</p>
P	<p>・学校が後からできるので、周囲の住民(コミュニティー)や環境に溶け込めるものになるように。</p> <p>・将来の児童減少もふまえて、他にも活用できるような建物作りを検討しても?</p>
Q	<p>基本的な安全が確保されていることとどこまでバリアフリー、エコの観点を実現できるのか。その上で、特別支援の観点をどこまで加えることができるのか。建物をよりよく活用するには、大人の知恵が大きく、子どもに影響することなどと感じました。</p>
R	<p>別紙①のとおり (4ページ)</p>
S	<p>別紙②のとおり (5~7ページ)</p>

1. 通常学級より

- ・給食を提供する厨房が必要。
- ・各4学級ある学年が、同じフロアで過ごしたい。
- ・教室や廊下に余裕を持たせ、フリースペースがあると児童数の増減に対応できる。
- ・下駄箱のサイズがゆったりしているとよい。
- ・屋上を活用して、緑のエコスペース、太陽光発電、プールなど配置できるとよい。
- ・自然を生かした採光や換気があると、生きた環境教育が実践的に学べる。

2. つくし学級

【教室】

- ・教室のサイズが通常教室だと大き過ぎる。半分に分ける場合は防音対策が必要。
- ・黒板の高さ、電気のスイッチの位置が児童に届き、ロッカーが、縦式の鉄製のもの。
- ・教室入口の窓の位置…児童が廊下から教室を見られるようにしたい。
- ・床に緩衝材のようなものがあるとよい。→転倒等への配慮。
- ・教室は1階に配置し、教室周りが静かで、導線ができるだけ短く、玄関から近いほうがよい。
- ・体育館や校庭までの移動距離が近くなるようにしたい。

【特別教室】

- ・音楽や生活が全体でできるプレースが必要。図工室も必要。図工室の机、椅子の高さ。
- ・児童への個別対応ができる部屋があるとよい(学習室として)。
- ・支援学級用の職員室が必要。教室は支援学級職員室近くに配置が必要。
- ・支援学級用の備品が多いので置き場(倉庫等)が必要。

【廊下】

- ・階段に児童でも使いやすい手すりがほしい。
- ・廊下のフック…一年生でも掛けやすいか。白衣・上履き袋・上着を掛けられるか。

【トイレ】

- ・小便器、便座のサイズ(高さ・内径)が、小さい子でも届くサイズが必要。
- ・トイレトーパーまで小さい子でも手を伸ばして届くようなサイズが必要。
- ・多目的トイレがあると介助者が入って対応しやすい。同じ場所に複数あるとよい。
- ・トイレの鍵が外から開けられるようなタイプを希望(入って出られないことがある)。

【水飲み場】

- ・蛇口の位置・流しの高さが小さい子にもあったものがよい。

【玄関】

- ・スクールバスの乗降車位置を児童玄関近くにしたい。
- ・下駄箱の高さが上の段まで児童が使用可能か。

【校庭・プール】

- ・校庭以外で体を動かせる場所(校庭では広く、児童管理が難しいため、中庭のような)。
- ・体育や休み時間に使用できる遊具がほしい。
- ・プールの深さが適しているか(水位を減らすと高低差が大きくなり、水位の差が大きいと危険)。

1. 検証

青嵐中、けやき小の2校について、この施設のここはよかったとか、このような施設がぜひ必要などいわれたが実際にはあまり使われなかったなど、当時の管理職などから話を聞き、検証することが大切なことではないか。

他区や他市などの新設校の中には、特徴(話題性)を出したいがためにそのことが、学校にとって、その後の維持経費などの面で負担になっているといったケースもあると聞いている。

2. 基本的な考え

学校は、子どもや地域の人にとって、教育施設だけでなく、これから予想される大地震などの災害に対して、一番身近であり、最も頼りにしている公共施設であることを基本計画におくことが大切と思われる。

たとえば、障害者や避難の際の高齢者などに配慮してエレベーターの設置は必要。基本的には基礎工事は、耐震構造は当然であるが、内部構造は児童・生徒数や教育活動の変化に対応できるような設計工夫がその後の予算面の軽減の点でも大切と思われる。

3. 教育施設として

①教室、特別教室

- ・最近の子どもの体格は、身体が大きくなっていることや、授業の形態が座学形態から、グループ形態、さらには英語の授業のように体を動かすなど動的な授業が多く取り入れられているので、ひと教室の面積を従来より大きくする。
- ・個々の生徒の日常の持ち物が多く、机と机の通路に持ち物が床に雑然と置かれていることが多く見られる。不衛生であると同時に避難の際などに障害となる。個々の戸棚の面積を大きくする。
- ・今の教育は、教師の板書授業より生徒の討論の結果などを黒板に記録するなどの発表をすることが多いので、黒板の面積を従来より大きくする。映像教材やパワーポイントなどの活用が効果を挙げ、日常化されることなどを考慮して上下電動のスクリーンなどの設置もよいのではないか。
- ・今後益々重要視される情報教育のための施設を、その時々に対応するだけでなく配線など基本的な部分は設計の段階で組み入れておくことが、電子化など後の予算の軽減になるのではないか。
- ・理科室などの作業を伴う特別教室は、実験台や作業台との間隔が狭く、身体が大きくなっている生徒にとって窮屈であり、ぶつかって薬品をこぼすなど予想され、それなりに教師は注意しているけれど改善するチャンスではないか。
- ・今後の予想される気象変動に対応した、教育環境などを想定し、屋上の緑化など対策にどれほどの効果があるのか、また、維持管理の面なども検証し、世間の動向に惑わされない西東京市の独自の施策を考えるべきではないか。
- ・特別教室は、教育の為の活用だけでなく、地域の住民のために教育施設開放(たとえば、家庭科教室は料理教室、技術室はものづくり講座など)、そして避難者のための作業場面になることを考慮し、3方法(ガス、電気、石油など)を考えておくことが大切と思われる。

②廊下

- ・建替えられた学校や新設校、最近の都立高校や外国の学校の廊下はかなり広い。むしろ今までが狭かったのではないか。多くの小学校などは廊下に手荷物などがぶら下がっていたりしてさらに

廊下としての機能が軽減されている。座学の教育からグループごとに討論するこれからの教育では場合によっては広い廊下が、討論の場になって活用されている。また、避難の際などを想定しても教室の半分ぐらいの広さがほしい。

・教室側の壁面には生徒作品・環境教育・情操教育・進路情報などの活用する機会が多い。掲示壁面を広くする。

③職員室

・どの学校を訪問しても感じることは、教師の机に雑然と教材や本が置かれている傾向が多く見られる。確かに成績物や作品・明日の教材など特別教室を持たない教師は生徒から成績物を晒されないようにするなど悩みの種。校長から机の整理など注意されるが、経験上から、熱心な教師ほど悩みの種。学校によっては個人の戸棚があるけれど他の教師と共有であったりする。個々の教師の戸棚を設置するか、教材管理などの名目でゆとりがあればその目的のための小部屋を設けることが大切。

④管理職室

・校長は自校の学校教育の経営をどうするか責任者である。そのためには校長の思考の場がなくてはならない。校長室は会議室や応接室ではないと考えている。むしろ思考の場でなくてはならない。その意味では、小さくなくてよいと考えている。できれば都立高校のように副校長の部屋を設置し会議室とすべきと考える。会議室は副校長室としてもよいのではないか。

・管理職室は、校庭が見える場でなくてはならない。

⑤校庭

・中学生の部活動は精神衛生上や、問題行動を防ぐ意味でも大切であり、また将来の人生の夢を追い求める生徒もいる。本市でも問題行動のあった中学校が部活動を大切にし、すばらしい成果があったと聞いている。校庭を一年中使えるような環境を整えてやりたいものである。できたら、部活動の多目的な更衣室を設置することが大切。

・年間授業や行事、部活動など教育活動をスムーズに推進するためにゴムチップなど採用するとよい。

・建替え学校は、いこいの森に近く、自然に対して興味・関心を持つ子どもも多い。また、団地の緑化に添うような環境を整えたい。このことを大切に、校庭の周辺にビオトープをつくり、環境教育と休日の住民のいこいの広場とし、子どもと高齢者などの交流の場に活用したい。

4. 住民の避難場所としての施設として

近年、日本各地には大災害がいろいろと報道されている。住民は災害が起きたときに一番頼りにしているところはなんといっても身近な学校である。

①体育館

・災害はいつ起きるかはわからないが、識者によると、近い将来にはあると断言している。学校に多く集まる地域住民に対し、特に暑さ・寒さ対策、照明など体育館の冷暖房の設置が必要。建替えの取り組みについて、住民にこのようなことを説明し、理解していただくことが建替え問題をスムーズにしていくのではないか。

②校庭

・災害が起きたときの報道を見ていると、水、トイレ、食料、シーツなど、学校が頼りにされている。

・いこいの森の公園のように、ベンチを数箇所設置しその下には調理できるような設備・トイレの設置など、普段は活用しないが災害が生じたときに簡易便器を設置するだけで使用できるように校

庭の各所にトイレ用の配管を整備する。その為の水確保のために校庭の一部を貯水槽とする。

③自家発電装置

- ・災害が生じたとき、頼りになるのは電気である。しかし、このような時は停電になりやすいのが事実で住民が頼りにしている学校、これに応えるには自家発電の設備が重要。

参 考

第2回西東京市立ひばりが丘
中学校建替協議会 資料5
平成26年12月15日
教育企画課企画調整係

西東京市立ひばりが丘中学校建替協議会 第3回会議ワークシート

次回の建替協議会では、再度建替校の将来像について、協議をする予定です。

つきましては、本日の会議内容や配布資料を踏まえた建替校の将来像について、以下のアンケートに御回答をお願いいたします。

- Q. 建替校の将来像について、本日の会議内容や配布資料を踏まえ、考えたことや感じたことなどをご記入ください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

御回答ありがとうございました。お手数ですが、平成27年1月6日(火)までに返信用封筒を用いて事務局までお送りいただくか、FAX等にて御回答ください。

平成 年 月 日

西東京市立ひばりが丘中学校建替協議会委員

氏名 _____

(氏名は提出確認のために使用します。集計結果には掲載されません。)